

# 2018年度の事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特例認定特定非営利活動法人まなびと

## 1 事業の成果

### (1) 青少年に対する学習支援事業

#### ◆ 放課後学びスペースアシスト事業

##### 【学園都市校】

学園都市校では、平成30年4月1日～平成31年3月31日の間、週1回（毎週月曜日18時30分～21時00分）、BRANCH神戸学園都市内にあるまちづくりスポット神戸が運営するコミュニティールームにて教室を開いた。生徒10名（高校生3名、中学生6名、小学生1名）に対して、スタッフ5名で対応した。「対話を通して自分の興味関心に気づき、それを深めることで学びに対しての意欲を育み、また周囲との関係の中で自己認知と他者認知を意識して、コミュニケーションの中から自分を見つめてもらう」を目指して運営した。

##### 【甲子園校】

甲子園校では、平成30年4月1日～平成31年3月31日の間、週1回（毎週金曜日18時30分～20時30分）、地域交流を目的とした住み開き型レンタルスペースであるまんまるみかんにて教室を開いた。生徒4名（高校生2名・中学生1名・小学生1名）に対して、スタッフ7名で対応した。教室全体としてではなく、個々の生徒に対して目標設定を行い、それぞれの個人の興味関心から始まり、将来の自分像を考えてもらい、そのためにどんな学びを得たいのかを考えてもらうことを目指して運営した。

##### 【六甲校】

六甲校では、平成30年4月1日～平成31年3月31日の間、週1回（毎週木曜日15時30分～17時30分）あーとすぺーす童夢にて障がいを持つ生徒2名（高校生1名、小学生1名）に対して、スタッフ2名で個別に学習支援を実施した。それぞれの子どもの状況に合わせて、その子どもが興味をもったことを一緒に調べたり、基礎的な学習支援を行ったりした。集中して問題に取り組みにくい小学生に対しては、問題を解く過程にゲーム性を持たせて、楽しみながら問題を解くことで達成感を感じてもらうように努めた。指を使わなければ足し算、引き算ができない状態であったが、繰り上がり、繰り下がりの有無など条件を付けて初めから指を使うことを許可してあげることで、条件以外の状況では使わないようにチャレンジしてみようという意欲ももつことができた。四則演算が苦手な高校生には、できるだけ普段の生活の中で起こるような具体的な状況の中で使う四則演算の問題を出すことで、イメージを持ってもらいながら計算に取り組んでもらうように努めた。また高校生は興味の幅が広く、調べることにに対してどんな意欲を示していたため、その子どもの興味があることをできるだけ深く知ることができるよう、毎週疑問に思ったことや知りたいことを挙げてもらい、それを一緒に調べる作業を行った。

##### 【全体を通して】

2018年度のアシストは、受験期の子どもがいたこともあり、自分がやりたいこと、なりたい自分像に焦点を当てて今の自分を考えてもらった。自分の同級生や一般的な価値観を見て高校や大学に進学することが当たり前だと思うのではなく、何故その未来の自分になりたいのか、そしてその未来像になるためにはどんなことを

しなければいけないのか、どんな方法があるのかを考えてもらうことに努めた。自己分析を行い、将来なりたい仕事を言葉にできていた子どもには、その将来像のために何故進学したいのか、今知っている方法以外でその仕事をするためにできることは他にはないのか、どうしてその仕事を将来したいと思うようになったのかを改めて考えてもらう機会を持った。受験の学年になった当初は漠然としていた志望動機をスタッフと一緒に形作っていき、各校の受験生が志望校に合格することができた。

卒業、新規入会などに伴い、教室に通う子どもやスタッフの顔ぶれに変化があったため、新しい境遇、環境で生活する子どもたち、スタッフとの出会いが増え、当プロジェクトの目指す多様な人との関わりが自然と生まれることになった。特に新規入会した高校生 2 名は学校の中での友達との対話に課題を抱えていたり、大人に対しての不信感を抱いていたりしたため、人や社会との関わりをうまく取ることができず、学びに対する意欲低下が見られた。その部分を重点的にケアすることでアシストがその子を否定する場所ではないこと、安心して学ぶことができる場所であることを認識してもらうことに努めた。やりたいこと、好きなことだけでなく、やりたくないこと、好きではないこと、「親や周りの大人はこう話しているけど、自分は賛成している、もしくは反対している」「こんなことをしているときはリラックスできる」など、子どもたちが普段考えていることの中で、周りの人から否定されたり批判されたりすることにより言葉にすることをためらってしまっていたことを、ここでは話しても大丈夫だと感じてもらうように努めた。

勉強に興味を持っている子どもに対しては、その勉強が実際の生活の中で関わっていることとどのようにつながっているかを感じてもらうことに意識を持たせるようにした。そして自分の身の回りのものと繋がっていることに気づくことで、面白くないと感じていた科目の内容が自分の好きなものや楽しいと感じているものの中にも含まれていて、学校などで「教えられる勉強」からだけで知識を増やすのではなく、自分の興味をきっかけにして、身の回りのものから「知ろうとする勉強」を見つけてもいいことを伝えた。科目ごとの垣根を外して考えてみると、社会の中で起こっていることは勉強していることの様々な科目の要素が混ざり合っていることを知ってもらった。

自分の意見を他人に伝えるワークとしてディベートを実施し、その司会進行も子どもたちが行った。自主的に子どもたち同士やスタッフとの会話を行わなければ成り立たない場面を多く作ることで、自然と誰かと意見を交換する機会を増やすように努めた。

不登校に悩む一人の子どもの希望で 7 月にスタッフの一人と東京へ旅行に行った。一対一での時間をしっかりと取ることができたため、周りに気兼ねすることなく、普段から思っていることや考えていること、また学校、家族など自分が所属している集団での自分の思いを話してもらった。またその子が自ら訪れたい場所を選び、自分の興味関心事に直接触れてもらうことと今の自分を自分の言葉で話すという経験ができたため、帰ってからの教室内では自ら勉強をやりたいと言葉にするようになった。

アシストでは学習面、環境面、心理面での子どもの現状を把握したうえで、まずは今のその子自身の状態を認めてあげること、そして各生徒に対する有効なアプローチを取れているかを常に意識し、毎回教室後のミーティングでスタッフが現状とそれぞれの考えを共有して次回の教室に臨むということを繰り返した。

#### ◆ 神戸こども探険隊事業

本事業は、神戸北野エリアにて、子どもたちが安心して学んだり遊んだりできる場所をつくることを目的に、平成30年4月1日～平成31年3月31日の間、週2回（毎週火曜日と水曜日 15時～19時）、当法人が所有する事務所「まなびと北野基地」にて実施した。2015年度より連携を強化してきた北野婦人会や社会福祉協議会などの参加する地域福祉ネットワークとの協力のもと、神戸市からの補助を受けて無料（おやつ代は月額300円）で運営した。生徒21名（小学生20名、中学生1名）に対して7名のスタッフで対応した。

教室内で学校の宿題や子どもたちが自分で持ってきたワークなどの勉強をするだけでなく、遊びながら学べるコンテンツとして実験や工作、読み聞かせや知育ゲームなどを実施した。全体で遊べるゲームなどを実施することで、他者との関わり方を学んでもらった。

#### ◆ 学童保育事業

本事業は、神戸北野エリアにて、地域での学童保育所の不足を解消すること、子どもたちの放課後の安全な居場所の確保とその時間で新しい発見や学びを得てもらうことを目的に平成30年4月1日～平成31年3月31日の間、当法人が運営する学童保育所「北野くん家」にて実施した。登録生徒は小学生18名。常時10名程度の利用があった。スタッフは職員2名と学生アルバイトとボランティアを配置した。

一人一人の子どもに目が届きやすい環境を目指し、学校からの迎えや、宿題や習い事の勉強を付き添うなど細やかにケアすることを心掛けた。また施設内にあるおもちゃで遊ぶほかにも、自分たちで工作をしたり、公園で外遊びをしたりするなど、様々な遊びを通して学ぶ力を養ってもらった。長期休暇中には市営プールや水族館、博物館などに出かけることもした。

#### ◆ クリスマス会

アシスト、探険隊、学童の事業の一環として3事業合同企画としてクリスマス会を実施した。開催日は平成30年12月23日。子どもは16名、スタッフは14名が参加した。普段教室に通っている生徒やスタッフ同士だけではなく、他の教室の生徒やスタッフと関わってもらうことで、いつもと違う人との関りをもってもらうこと、それを通して子どもたちの新たな一面を見ることを目的に行った。

#### ◆ 若者支援事業

青少年が地域社会に出る興味を持ってもらい、機会を促進するため大学などで講座を実施した。東京工科大学7回、大阪経済法科大学5回、三重県未就労者就職支援事業所12回、神戸市外国語大学1回実施。

### (2) 日本語非母語話者への日本語学習支援事業

#### ◆ 日本語教室だんらん事業

日本語を学ぶことを通じて、日本人と外国人の国籍や文化、宗教といった枠を越えたコミュニティを形成することを目的として活動した。参加者の要望、レベルに合わせて、会話を通じての日本語学習の他、テキストを使った学習、日本語検定に向けた試験対策、就職活動におけるエントリーシートや、面接の対応の仕方などを学んでもらった。

平成30年4月1日～平成31年3月31日、週4回（毎週月曜日・水曜日・木曜日 19時～20時30分、火曜日 20時～21時30分）、月曜日と木曜日は王子公園「まなびの樹」にて、火曜日、水曜日は北野の「まなびと北野基地」にて教室を開いた。生徒数は延べ人数800名（見学を含める）に対して、スタッフ30名で運営実施した。

◆ 日本語教室だんらんイベント事業

日本語教室だんらんイベント事業では、①教室に参加する生徒との交流を深めること②新規教室参加者とのつながりづくりといった3つの目的からイベントを開催。各イベントの趣旨、開催日程、開催状況などは「2. 事業の実施に関する事項」に記した通り。

(3) 地域コミュニティ形成を目的とした交流イベントの実施事業

◆ 「北野こくさい夏祭り」出店

2015 年度より連携を強化し、神戸こども探険隊を実施した北野エリアにおいて地域とのつながりを深める一環として平成 30 年 8 月 25 日に実施された北野こくさい夏祭りに出店。ゲーム型ブースとして「スリッパホイホイ」というゲームを行い、景品として子どもたちにお菓子を配布した。

当日は 197 名の子どもたちが参加して、多くの地域の子どもたちに楽しんでもらうことができた。スタッフとして日本語教室だんらんに通う生徒も一緒に参加した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数 (※スタッフの数)	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数
青少年に対する学習支援事業および青少年に対する学習支援活動全般に携わるボランティアの育成事業	「放課後学びスペースアシスト」以下3校の運営 ① 学園都市校 ② 甲子園校 ③ 六甲校	(A) 通年：学園都市・甲子園校・六甲校週 1 回 (B) 神戸市内・西宮市内 (C) ① 5 名 ② 7 名 ③ 2 名	(D) 小・中・高校生 (E) ① 10 名 ② 4 名 ③ 2 名
	「神戸こども探険隊」	(A) 通年：週 1 回 (B) 北野基地 (C) 7 名	(D) 小・中学生 (E) 21 名
	「クリスマス会」アシスト学園都市校としてクリスマス会を実施。ケーキを作りや、ゲームを行う。	(A) 12 月 23 日 (B) 北野基地 (C) 14 名	(D) 小・中・高校生 (E) 16 名

	大学での講義	(A) 通年不定期 (B) 東京都、大阪府、三重県、神戸市 (C) 1名	(D) 大学生 (E) 不明
社会問題・国際問題について理解を深めるための大人を対象とした学習会事業	実施無し		
日本語非母語話者への日本語学習支援事業	「日本語教室だんらん」 各教室運営とイベントの実施	(A) 通年：週4回 (B) 神戸市内 (C) 30名	(D) 日本に住む外国人 (E) 延べ800名
	「餅つき」	(A) 平成30年2月2日 (B) 北野基地 (C) 10名	(D) 北野地域に住む日本人、外国人 (E) 30名
	「WASSHOI」	(A) 平成30年2月16日 (B) 北野基地、北野くん家 (C) 25名	(D) 地域に住む外国人と日本人 (E) 30名
地域コミュニティ形成を目的とした交流イベントの実施事業	「北野こくさい夏祭り」への出店 (北野エリアの子どもたちに向けて「スリッパホイホイ」というゲーム型ブースを出店)	(A) 8月25日 (B) 神戸北野工房のまち (C) 25名	(D) 小・中学生 (E) 197名

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	事業費の金額 (単位：千円)
実施なし			